

五社神社案内

平成二十四年三月三十日

本殿 京都市有形文化財建造物登録
境内 京都市環境保全地区指定

ご神体

本殿内陣に一二〇センチの木の舟があり、その中に約二〇センチの高さの神像五体が乗っておられるので五社神社といえます。その五体とは春日大明神像、住吉大明神像、秋津姫乃命（女性神像、背面に松尾社の注記あり）、皇大神宮神像、八幡宮衣冠束帯神像、藤原時代（平安時代中期・後期）の作。

由緒

北朝元号・暦応二年（一三三九）本殿前に関東の豪族・宇都宮頼綱（鎌倉幕府初代執権・北条時政の娘婿、出家して蓮生、小倉百人一首の撰者の一人）が寄進した燈籠があり、鎌倉時代末期には創建されていたと推察される。秦氏が松尾大社の本殿を七〇一年に創建し、その後末社として五社神社他が建造されている。ともに神紋は豊穰の象徴の里芋（小芋）の図柄となっている。
※五社神社の神紋は、本殿の裏股に彫られている。

年中行事（神事は大原野神社宮司様、写真記録は上村輝子様）

神社独自の祭礼

一月 一日 歳旦祭 前日の午後十一時からの年越し祭に続き神事を行い新年を祝う

一月 十五日 とんど 午前九時 古い御札などを焼納

三月 第二日曜日 御当祭 午前十時 狩衣装束の六歳の稚児三名を先頭に総代が早稲・中生・

晩生を餅や里芋で表した台座を抱えて続き、家族も加わり町内を巡行し直会でお餅を焼いて頂く。前日より準備

八月 三十一日 八朔祭 午前十時 五穀豊穰を祈願 現在は神事のみ。平成九年までは

芸能を奉納（六斎念仏、カラオケなど）

松尾大社の祭礼に出仕

お馬祭（松尾大社還幸祭） 四月二十日以後の次の日曜日＝神幸祭から起算して三週間後

五月 第二または第三日曜日。一週間前の奉告祭で下津林の十一歳の男児が松尾遣いの位を拝受し、烏帽子を被った装束で総代三名が袴姿でお供を務め、神輿の無事帰還を祈念し神輿の各御旅所を巡回する。（約五十年前までは五社神社から白馬に乗り巡回したので「お馬」といわれ名称が残った。午前十時前に神社を「車」で出発

御田祭 七月 第三日曜日 午前九時に五社神社を出発。松尾大社の神事に早稲・中生・

晩生役の植女として下津林、松尾、嵐山から花笠を被り萌黄色の装束で出仕。
午前十時の本殿での神事後、父親に担がれ拝殿を三周し神饌田で神事。

五社神社境内説明図 令和3年9月

ガレージ

(昔は竹藪)

ガレージ

(平成3年4月)

北



(平成30年1月)

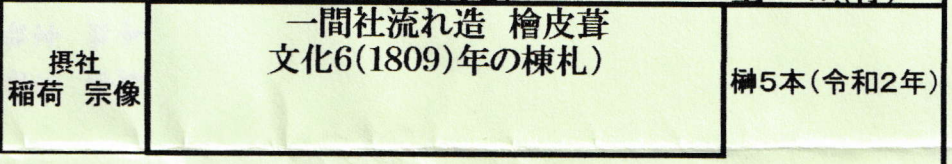
玉垣

本殿

(覆屋付き)

玉垣(竹)

ガレージ



仮社務所
(自治会倉庫)

さざんか
山茶花

金木屋

燈籠 ■ ② 楠

宇都宮頼綱寄進

坂道

つつじ 馬酔木

霧島つつじ

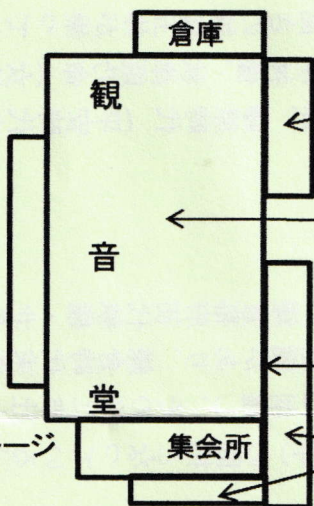
駒札

拝殿

割拝殿

拝殿

(平成29年3月)



濡れ縁

旧永福寺本堂(応仁・文明の乱で洛中より)

茅葺屋根

能舞台 ① 楠

橋掛かり

薔戸

(令和3年2月修復)

濡れ縁

山吹原木2本

■ 忠魂碑

(日露戦争後)

■ 水盤

●

地藏堂

昭和63年3月前田様

手水舎

西門

③ご神木

○ 二ノ鳥居 ○(大正9年5月)

● 役行者祠 地藏様

楠 幹回り4m20cm

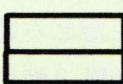
狛犬(吽)ん

■ (大正8年)

■ 狛犬(阿)あ

補足

本殿



内陣(五体の神像)

外陣(げじん(鏡、木製の狛犬、御当の祠、お供え物))

ご神木の剪定順 ①平成28年、②平成29年、③平成30年

拝殿 西側が広い(舞台の楽屋代わり)

能舞台 天明9(1789)年奉行所宛の文書に記載あり

永禄11(1568)年 猿楽の興行

元禄 2(1689)年 能の興行

一ノ鳥居 令和元年 塗り替え(業者)

同年 扁額の修復(島川、道明の両氏)

玉垣 竹材の加工、垣の設置(島川、川本の両氏)

毎朝の清掃、補修 <壁、柱、セメント、駐車場のライン他>、除草剤の散布、

掲示板の設置、堆肥作成箱など(森山、島川、道明の諸氏他)

石橋

参道

(約70m) 桜

松

桜

紫陽花 ●

燈籠 ■

白梅

並木

一ノ鳥居

●(両部)

■ 燈籠

(大正9年10月)

當小作中二名

■ 神社石碑

紅梅、彼岸花

車止め

■